

【小学校・中学校・義務教育学校用】
令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	鹿島市立東部中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	・学校評価アンケートでは、生徒は充実した学校生活を送っている。教職員が生徒一人一人の状況等に応じて、教育活動に取り組んでいることがよくわかる。諸課題に対して、学年や該当の校務分掌担当等がいち早く情報共有や共通理解を図り、組織的に対応した結果 ち着いた学校づくりにつながっている。約80％の生徒が自分のことを肯定的にとらえているが、今後も諸行事や生徒会活動等を通して、自己肯定感や自己有用感を高めるための取組を継続したい。 ・全国学力・学習状況調査や県学力・学習状況調査の結果からみると、3年生は全教科で県平均を上回り、2年生は、県平均との差が縮小するなど、成果が見られた。今後も学力向上対策コーディネーターや研究主任を中心として、主体的・対話的で深い学びの充実に「 業の工夫改善を進め、家庭学習の質的・量的改善を目指して支援していく。 ・地域の方を講師としてお招きしたり、生徒がPTAと一体となって地域におけるボランティア活動を行ったりするなど、地域とともにある学校を目指した活動を実施することができた。地域との連携を今後も深めていきたい。
------------------	--

2 学校教育目標	郷土を愛し・健やかな心身を育み・ともに伸びる ～ STEP UP!! あいさつ(A)・掃除(S)・勉強(B) プラスワン ～
----------	---

3 本年度の重点目標	①健やかな心身の育成（道德教育及び、人権・同和教育の充実、特別支援教育の充実、部活動の再編と充実、生活リズムの確立と食育の充実） ②学力の定着と向上（学習規律の定着とわかる授業づくり、一人一台PCの効果的な活用とデジタル教材を用いた学力定着の工夫、主体的に学ぶ生徒の育成） ③協働してより深く学ぶ生徒の育成（対話によって学び合う生徒の育成、個に応じたキャリア教育の充実、行事や体験活動による実践力の育成） ④人間関係を形成する力の育成（気持ち良い挨拶ができる生徒の育成、無言掃除の徹底による心の育成、支持的風土のある学級づくり） ⑤地域とともにある学校づくり（開かれた学校づくりの推進、地域やPTAとの連携）
------------	--

4 重点取組内容・成果指標					中間評価	5 最終評価				
(1)共通評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した生徒80%以上	・全教科半分以上の授業で「話し合う活動」を設定する。	A	・校内研修の取組として、話し合い活動を積極的に行っている。数値目標を大きく上回る95%の生徒が肯定的な回答をしている。	A	・中間評価をやや下回ったものの、92%の生徒が「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した。	A	・全教科の半分以上の授業で「話し合う活動」を設定して取り組んでおり、生徒もそれを肯定的にとらえている。「話し合う活動」の更なる充実により、今以上の結果や成果が表れるのではと期待している。	
	○指導方法の改善・充実	○授業が「分かる」と答える生徒の割合75%以上	・主体的で対話的な深い学びをおこなうため、アクティブラーニング等の表現活動や活用力を取り入れた授業に取り組む。 ・授業研究会を計画的に実施する。	A	・校内研究の取組である対話的な学び（西部型授業）を全ての授業で実践し、授業研究会を計画的に行っている。数値目標を大きく上回る94%の生徒が肯定的な回答をしている。	A	・95%の生徒が「授業が分かる」と回答している。また、89%生徒が「授業では、生徒間で話し合う活動をよく行っていると思う」と回答し、西部型授業が定着したと言える。	A	・「授業の時の先生の説明がよく分かる」と回答した生徒が95%という結果は、全職員一丸となった実践の成果だと思う。 ・今後はICT機器の有効活用について、更なる工夫を期待したい。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・ふれあい道徳を実施する。 ・生徒会主催での人権集会等を開催し人権意識を育む。	A	・4月にふれあい道徳を実施した。また、各学年の生徒の実態に即した授業を計画的に実施しており、道徳に関する生徒の肯定的な回答は平均89%であった。 ・人権集会を計画的に実施し、98%の生徒が、人権に関して肯定的な回答をしている。	A	・91%の生徒が「道徳の授業を通して、人としての生き方を学んでいる」と回答し、87%の生徒が「道徳の時間で、自分の事をよく考えるようになった」と回答した。道徳の授業は、担任だけでなく、各学年の全職員で取り組んでいる。	A	・道徳の授業を、担任だけでなく全職員で取り組んでいるところがすばらしい。 ・アンケート結果から、生徒は楽しく学校に通い、他者との関わりも良好であることが分かる。	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○職員のいじめ問題への対応や取組に対する生徒評価、保護者評価で、90%以上	・毎月、生活アンケートを実施し、生徒指導主事を中心に全職員で生活面における問題の早期発見・早期対応につなげる。	A	・積極的な認知、認知と迅速な組織的対応を心掛けている。 ・数値目標を上回る96%の生徒が肯定的な回答をしている。今後も昼休み等の廊下や教室への職員の常駐を続け、いじめ等の早期発見と対応につなげる。	A	・98%の生徒が「友達を差別したりいじめたりしないように心がけている」と回答し、80%の保護者が「東部中は、いじめの対応に取り組んでいる」と回答した。昼休みにも職員が教室や廊下に常駐するなど、予防的な生徒指導にも取り組んでおり、その成果も評価につながったと言える。	A	・90%以上の生徒が「学校に行くのは楽しい」と回答しており、すばらしい。 ・部活動内での関係についても知りたい。また、現在の取組を継続してほしい。	
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上	・構成的グループエンカウンター等を利用して自己肯定感や有用感を高める。 ・地域の教育資源や人材をいかした体験活動や講演会を実施する。	A	・総合的な学習等の時間に、地域の方を講師として招聘し、講演会等を実施した。 ・生徒の回答は94%、81%とどちらも数値目標を上回った。今後も地域と連携・協働して、教育活動に取り組む。	A	・80%以上の生徒が「夢や望ましい将来の自分像について考えている」「自分の将来のために、今努力をしている」と回答した。進路学習や職場体験学習等を通して、よりよい職業観を養うよう指導した成果であると考ええる。 ・94%の生徒が「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う」と回答した。	A	・適切な進路指導、職場体験学習等のキャリア教育に力を入れていることが、生徒の意識向上につながっている。	
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ○安全に関する資質・能力の育成	●「健康に良い食事をしている」と回答した生徒生徒80%以上 ○児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・フォーサイトを利用し、自己管理できる力を養う。 ・学校HPや各種たよりを発行し、保護者に生徒の様子を積極的に知らせる。 ・生徒を安全に登下校させるため、定期的にルールやマナーについて指導を行う。	A	・集会時や、日常的に校内を巡回しながら安全指導を行った。自転車通学時に車に接触された事故が1件発生したが、生徒の加害による事故は発生していない。今後も定期的に安全指導を行う。 ・91%の生徒が「健康に良い食事をしている」と回答した。	A	・90%以上の生徒が「健康には、気をつけて生活している」「健康に良い食事をしている」と回答している。また、99%の生徒が「危ない目にあわないように、自分の行動に気をつけている」と回答している。引き続き、集会等での安全指導や日常的な安全指導、巡回指導を行う。	A	・健康や安全に対する生徒の意識が高く、すばらしい。 ・生徒の危機管理に関する意識が高く、すばらしい。	

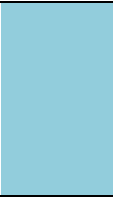
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週水曜日を定時退勤日、部活動休養日とし、時間外に行事等を入れない。 ・業務内容を精選する。また、業務を分担し、一人に過重負担がないようにする。 ・目標退勤時間を毎日記入して、在校時間削減の意識を高める。	B	・職員は業務の精選と効率化を図っているが、保護者対応や生徒指導、対外的な用務で長時間勤務になってしまう職員がいる。校内の業務改善や個人の努力では限界がある。	B	・すべての職員が「業務の効率化を図っている」と回答し、平均時間外在校時間は基準の月45時間を下回っている。しかし、基準を超える月もあり、また、個々に見ると基準を超える職員もいる。業務分担等、更なる効率化を図る必要があるが、欠員もあり、校内の業務改善だけでは限界がある。	A	・欠員もあり、厳しい状況であるにもかかわらず時間外労働時間の基準を超えないよう努力されていることが窺える。 ・部活動指導後に校務を行わざるを得ないなど、職員の努力だけでは改善できない問題もあり、欠員をなくす努力なども併せて市全体、県全体で考える必要がある。
	●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員75%以上	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・支援会議を開催し、関係者間での情報共有を行う。	A	・外部講師を招聘して、特別支援教育の実践的な研修を実施した。また、支援会議を開催し、協議内容を全職員に周知して情報を共有し、全職員で共通実践を行っている。	A	・74%の職員が「特別支援教育に関する専門性が向上した」と回答した。今後も実践的な研修会を実施するとともに、支援会議等を開催し、協議内容の周知や情報共有を図り、全職員の共通理解、共通実践に努める。	A	・今後も様々なことに対応することができるよう、研修を重ねてほしい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○あいさつや掃除の充実	○「あいさつ」や「掃除」の充実	○生徒が「元気よくあいさつができている」と答える保護者の割合が80%以上 ○「掃除がきちんとできている」と答える生徒の割合が90%以上	・生徒会やPTAと連携してあいさつ運動を行う。 ・掃除のときも職員が臨場指導し、その都度生徒を評価する。	A	・PTAと生徒会合同で朝の挨拶運動を行った。 ・全職員が臨場し、率先垂範しながら清掃指導を行った。99%の生徒が「掃除がきちんとできている」と回答した。	A	・98%の生徒が「掃除をきちんとしている」と回答し、86%の保護者が「生徒が家庭や地域でよくあいさつをしている」と回答している。	A	・生徒、職員、保護者すべてが高い数値ですばらしい。中学生の掃除の仕方をぜひ動画等で紹介してほしい。小学生の手本にしたい。 ・地域によっては知らない人にあまり挨拶をしないところもある。	
○地域とともにある学校づくり	○地域とともにある学校づくり	○「地域に誇りを持っている」と答える生徒の割合が80%以上	・ボランティア活動に積極的に参加させる。 ・保護者が行事に参加しやすい日程を設定したり、内容を工夫する。 ・サービスラーニングを行う。 ・HPを使って積極的に情報発信を行う。	A	・ホームページをこまめに更新し、積極的に情報発信を行った。 ・地域行事へのボランティアやPTAと生徒の合同による地域ボランティア活動を行った。 ・90%の生徒が「地域に誇りを持っている」と回答している。	A	・生徒会等のボランティア活動で、地域と一体となった活動を積極的に行うことができた。また、89%の生徒が「鹿島市で生活できて幸せだと思う」と回答している。 ・学校からの情報発信については、96%の保護者が、肯定的に評価している。	A	・学校の取組について、多くの保護者が肯定的にとらえている。地域や保護者に発信するだけでなく、アンテナを高く張ったり、受け入れやすい環境を整えたりして、開かれた学校づくりに力を入れていることが分かる。	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・学校評価アンケートの回答結果から、生徒は充実した学校生活を送っていると考えられる。教職員が生徒一人一人の状況等に応じて、教育活動に取り組んでいる結果であると思われる。様々な課題に対して、学年や該当の校務分掌担当等がいち早く情報共有や共通理解を図り、組織的に対明朗で落ち着いた学校づくりにつながっている。約80%の生徒が自分のことを肯定的にとらえているが、今後も諸行事や生徒会活動等を通して、自己肯定感や自己有用感を高めるための取組を継続したい。 ・全国学力・学習状況調査や県学力・学習状況調査の結果では、教科によっては県平均との差が縮小するなど、成果が見られた。今後も学力向上対策コーディネーターや研究主任を中心として、主体的対話的な深い学びの充実に向けて、授業の工夫改善を進め、家庭学習の質的・量的改善を支援していく。 ・地域の方を講師としてお招きしたり、生徒がPTAと一体となって地域におけるボランティア活動を行ったりするなど、地域とともにある学校を目指した活動を実施することができた。地域との連携を今後も深めていきたい。
-------------------	--

し、明朗で落
句けて、授



主な担当者

・学力向上対
策コーディネー
ター
・研究主任

・学力向上
対策コディ
ネーター
・研究主任

・道德教育推
進教員
・人権・同和
教育担当
・各学年主任

・生徒指導主事
(各学年生徒指
導担当者)
・各学年主任

・進路指導
主事

・安全教育担
当
・食育推進担
当
・栄養教諭
・保健主事

・教頭 ・教務主任
特別支援 教育コーディネーター
主な担当者
・清掃指導 ・生徒指導 主事
・ボランティア担当 ・教頭 ・教務主任

応じた結果、
と目指して支